

食のリスクコミュニケーション・フォーラム 2024(4回シリーズ)

『消費者市民の安全・安心につながるリスクとは』

第2回テーマ：食のリスクに対する認知バイアスにどう取り組む

https://nposfss.com/schedule/risk_com_2024/

【開催日】2024年6月23日(日)13:00~17:00

【開催場所】東京大学農学部フードサイエンス棟中島董一郎記念ホール(ハイブリッド開催@Zoom)

* 事前参加登録者には開催前々日までに Zoom 会議 URL をメール配信します。

【主催】NPO 法人食の安全と安心を科学する会(SFSS)

【後援】消費者庁、東京大学大学院農学生命科学研究科

【賛助・協賛】キューピー株式会社、旭松食品株式会社、カルビー株式会社、

株式会社セブン-イレブン・ジャパン、日清食品ホールディングス株式会社、

日本生活協同組合連合会、サラヤ株式会社、日本ハム株式会社、東海漬物株式会社

【対象、定員】食品関連行政の担当者、食品事業者の広報・お客様相談・品質保証担当、リスク研究者、メディア関係者、消費者団体・市民団体、学生など 定員：各回 会場 70名・Zoom100名

【参加費】3,000円/回 (事前に銀行振込もしくは Peatix にて納付いただきます)

* SFSS 会員、後援団体、協賛団体(口数次第)、メディア(取材の場合)、学生は参加費無料

【参加申込み】第2回の参加申込期限:6月21日(金)

参加費無料の方(会員、後援/協賛、メディア等) ⇒ <https://forms.gle/CGieX9J43q6K2sfe6>

参加費有料の方(非会員、クレジットカード・コンビニ払い) ⇒ <https://sfss-event-20240623.peatix.com/>

参加費有料の方(非会員、銀行振込をご希望の方) ⇒ <https://forms.gle/CGieX9J43q6K2sfe6>

* 原則として法人様への請求書は発行しません(領収書での精算をお願いします)

【お問い合わせ】SFSS 事務局まで(info@nposfss.com)

【本フォーラムの主旨、開催概要】

毎回、食のリスクに詳しい有識者をお迎えし、**講師3名(各50分)+総合討論(70分):13:00~17:00**の構成とします。総合討論では、消費者市民の安全・安心につながる食のリスクコミュニケーションのあり方について、会場からの質問に講師が回答する形で議論します。

【各講師のご紹介&講演要旨】

① **小野 恭子(産業技術総合研究所安全科学研究部門 研究グループ長)**

『**食の基準値を通して考える、リスクとの向き合い方**』

食にまつわるリスクとリスクのトレードオフについて、基準値を通して考える機会としたい。食のリスクは、究極的には美味しさや文化的豊かさとのトレードオフで決まっているはずである。ここでは村上ら(2014)講談社ブルーバックス「基準値のからくり~安全はこうして数字になった~」の中から第一章「消費期限と賞味期限」にある例を中心に、食品の基準値がどのような科学的根拠や社会的背景に基づいて設定されたかについて解説する。食品包装とプラスチックリサイクルとの関係や、食品ロス問題なども多面的に取りあげる。「消費期限や賞味期限は、どのような種類の安全や豊かさを担保していることになるのか?」を知り、個々人や社会において、食で大事にすべきことは何か、を語り合う一助になれば幸いである。

② 山口治子 (愛知大学地域政策学部 教授)

『食の安全性に対する専門家と一般市民のリスク認知の特徴』

これまでのリスクコミュニケーションの失敗の要因の一つに、専門家と一般市民のリスク認知バイアスの存在があげられている。Slovic は、リスクの捉え方には技術的パラダイム、心理学的パラダイムそして社会的パラダイムがあるとし (Slovic, 1986, FAO/WHO 2006), 安全管理は技術的パラダイムで、リスク認知は心理学的パラダイムでリスクを捉えているとする。本フォーラムでは過去の様々な食品安全問題におけるリスクコミュニケーションの失敗を踏まえながら、専門家と一般市民のリスク認知の特徴について述べ、両者のリスク認知バイアスを改善するには、リスクアナリシスの枠組みの拡充とそれに基づいたリスクコミュニケーションが重要であることについて議論する。

③ 楠見 孝 (京都大学大学院教育学研究科 教授)

『食のリスクに対する認知バイアスの修正: 不安の低減と批判的思考の促進』

多くの人にとらわれてしまう認知バイアスとは何か。なぜ生じるのか、どのようにしたら修正できるのかを、食のリスクをテーマにして、認知心理学の立場から紹介する。第 1 に、認知バイアスとは何か、なぜ生じるのかを、人の認知と食品リスクの特徴に基づいて捉える。第 2 に、批判的思考とは何か、どのようなプロセスでリスク情報を吟味して、バイアスを修正するのかについて述べる。第 3 に、バイアスの修正には、不安の低減と批判的思考の促進が重要であることを、福島原発事故後の食品放射能汚染へのリスク認知を例に、直観的-批判的思考の二重システム理論に基づいて検討する。

以上